

SP-3

産後うつ 私たちにできる支援

中山 敏男

東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科

日本における周産期死亡率や妊産婦死亡率は世界でもトップクラスに低いと言われ久しい。しかし竹田先生らによる調査では、2014年までの10年間に東京23区内で確認された妊産婦の異常死の分析で、妊娠中が23例、産褥1年未満が40例で合計63例の自殺が確認され、出血などの身体疾患による妊産婦死亡の実に2倍以上であると報告された。また褥婦の6割が産後うつ病をはじめとする精神疾患であり、近年妊産婦をめぐる周産期メンタルヘルスの研究が注目されている。

産後うつ病をはじめとした周産期精神疾患の増加の背景には何があるのだろうか。もともと存在していたが報告されにくかったのか。それとも少子化高齢化や核家族化、女性の社会進出の増加などの社会的背景も関係するのか。妊娠期や産褥期に精神的に不安定になることは多く経験されるだろう。産後うつ病は決して人ごとでなく、母親のみならず、夫や子供を含めた家族や、周囲の人々、社会全体に大きな影響を及ぼす。産後うつ病についての昨今の状況について、背景や自治体や病院が行なっている対応について紹介し、社会全体で皆がそれぞれの立場でできる支援について一緒に考えていきたい。